

「イタリアの地域精神保健サービスの紹介と啓発活動」

我が国の精神科病床数は OECD 諸国の中で最も多く、現在も 28.9 万人の人たちが長期間入院している。地域サービスはあるものの、精神障がいのある人たちを支える体制は十分とはいえない。

一方、イタリアでは 1978 年に精神病院を閉鎖するイタリア精神保健法（180 号法 通称バザーリア法）が成立し、20 年後にはイタリア全土の公立の精神病院は閉じられた。

世界に先駆けて精神障がい者の隔離や排除をやめ脱施設化を実現した。入院治療に頼らない社会に開かれた地域精神保健サービスを展開している。

2018 年、NPO 法人東京ソテリアは、イタリアボローニャ市を拠点とする神障がいと社会的疎外を体験した他方面にわたるプロフェッショナルな演劇団「アルテ・エ・サルデーテ」と、ボローニャ地域保健連合機構精神保健局を招聘し、東京と浜松で日本初公演を行った。

精神保健の諸問題について広く社会の関心を高め、日本の精神障がいのある人を取り巻く現状を打破することを目的に企画された。

この公演をきっかけに「浜松サルデーテの会」は設立された。精神保健福祉医療分野の専門職や障がい当事者だけでなく、イタリア文化に関心のある市民や学生、精神保健福祉に関心のある市民が集い、メンタルヘルスをテーマに、立場や垣根を越えて交流しあう創造的な活動を展開している。

ワークショップでは、演者がイタリア訪問で学んだ「イタリアの地域精神保健福祉のシステム」を紹介し、「浜松サルデーテの会」の活動を紹介する。

精神障がいのある人が「街でくらす」を実現するとき、地域移行、地域生活のサポート、意思決定、社会の理解など、たくさんの乗り越えるべき課題がある。大会のテーマである「地域との融合」に現状を打破するヒントがあるのではないかと考える。

精神科分野で活動する作業療法士として「入院医療中心から地域生活中心へ」、「あらゆる人が共生できる包摂的な社会の実現」のためになにができるのか、語りあい考える機会としたい。